

■エイズ治療法&救急法研修 ～2015年2、3月

2014年9月から活動を開始したチルンザナニHBCの22名の訪問介護ボランティアを対象に、日常的なケアに必要な、エイズ治療法や救急法に関する研修を実施しました。2014年1月に行ったレベル1研修のフォローアップ研修です。



ARV薬の種類や名前を学びました。多くの方が薬の名前を知らず、製薬会社ごとに違うパッケージが変わると、正しい薬を飲んでいるかわからず、服薬を止めてしまう人もいます。ARV薬の名前と組み合わせや副作用などをしっかりと覚えていきます。

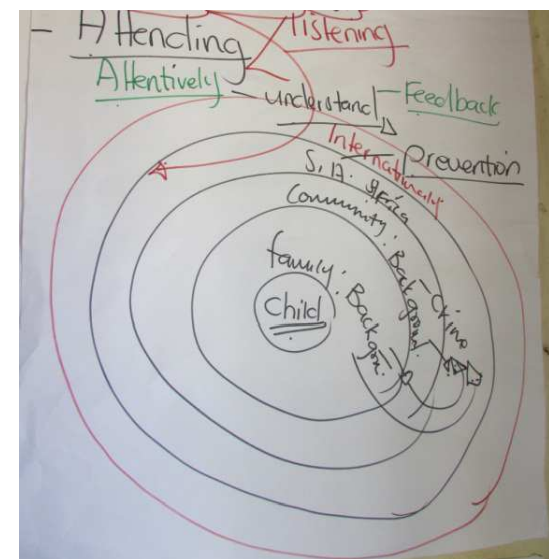


レベル1で学んだCPR（呼吸蘇生法）の応用として、児童、乳幼児に対するCPRを学びました。緊張するボランティアに「自分の子どもだと思って」と声をかけるトレーナー。

2 子どもケア活動 (DIC)

■子どもとのコミュニケーション研修～2014年11月、2015年3月

2014年11月、2015年3月の2回に分けコミュニケーションを学びました。「聞くこと」の大切さを学び、とくに虐待などが疑われる子どもたちと話す際の留意点を実践を交えて学びました。自分の子どもとのコミュニケーションを改めたと報告するボランティアも多くいました。



【上】センターに通う子どもの家庭を訪問し、保護者とも対話をする
ことで必要なケア内容を見極めます。【右上】いじめの問題に
ついて議論するボランティアたち。親がいないからなどを理由に
いじめられる子が多いそうです。

(特活)日本国際ボランティアセンター

■保護者との関係作り

通年

保護者との関係を構築することが、一つの大きな課題となっていました。各村のDICではそれぞれ保護者を招待しての会合を実施。DICの活動の内容や意義を話し合いました。これをきっかけに保護者がDICの活動に理解を示し、サポートするようになり始めました。



ンジャカンジャカDICでの保護者説明会。DICの活動内容に加え、子どもとのコミュニケーションの取り方などについて話し合いました。これが初めての試みでしたが、20名ほどの保護者が集まりました。



ボドウェ村の保護者会にて。英語での朗読を披露。思ってもいなかった成長ぶりに驚きの声が聞かれました。

2 子どもケア活動 (DIC)

■DICプログラム改善研修

2015年6、8月

さまざまな知識をつけてきたボランティアですが、学んだことをどう日々子どもたちとのプログラムに落とししていくかが悩みどころでした。6月よりスカウトの手法を取り入れ農村地域の子どもたちのリーダーシップ育成に取り組んできたNGOと協力し、プログラム改善に取り組み始めました。



「しっかり準備」「ことばで説明」「見せる（デモンストレーション）」「やってみる、真似る」「反復する」子どもたちに何かを教えるときの基礎的な流れを、ヒモの結び方や手工芸などを通して学びました。



小さいグループに分かれリーダーを置いて責任をもって教え合うこと、リーダーシップスキル、情報伝達の方法など多くのことを学びました。ゲームを取り入れながら楽しく学ぶ環境を創る方法も学びました。

(特活)日本国際ボランティアセンター

■HIV／エイズ・ピア教育研修

2015年11月

HIV予防のメッセージを大人から若者に伝えるのは困難を伴います。ボドウェ村の14歳以上の青少年を対象に、若者が若者に伝える「ピア教育」を担う人材を育てるための研修を実施しました。3日間の研修でHIVの感染経路や予防方法、HIV感染の家族への影響などについて学びました。



【上】この研修の終了テストは80%以上正解しないと修了証がもらえません。研修直後に合格したのは参加者24名中たった3名。その中の一人ロリブアさん(上中)が、研修後、仲間と復習会を実施し、その後さらに11名が合格。



【上】「恋人は何人まで？」を議論し合う若者たち。一夫多妻制が残る地域であるためか、恋人は一人でもいてもいい、という意見が男子から多数。それに反論する女の子たち。
【左】クロスワードパズルを使って、HIVのキーワードを学習。



■HIV/エイズ予防啓発活動

2015年6月

チルンザナニHBCが主催し、HIV予防啓発キャンペーンを実施しました。当日は、エイズ治療法研修を受けたボランティアが住民の前でHIVの感染経路や予防法について話しました。



フィアボム村コシ地区で行われたキャンペーンの様子。約80名が参加しました。質疑応答では、多くの年長者からの質問が出、HIV検査を受けに行きたいとの声が上がりました。



HBCを代表してベルリーナさんがHIVの予防方法を説明しました。とくに、母子感染について、妊娠がわかったらすぐにクリニックに行くようにと呼びかけました。

■学校での啓発活動 ～ より多くの子どもたちへ 通年

定期的に学校へ出向き、子どもの権利、HIV/エイズ予防など様々なトピックについて特別授業を持っています。中には、いじめの問題を解決してほしい。性教育について話してほしいなど、学校から依頼を受けることも増えてきました。



ークラス50名以上いる子どもたちに話すのは大変。40分ほどの授業でHIV予防についてはなし、その中で性教育にも触れました。ボドウェ村、中学校にて。



いじめについての授業。この学校にはタウンシップといわれる貧しい地域の子どもの通っていて、その子たちをターゲットにしたいじめがあったそうです。この授業の後、いじめが減ったという学校の先生の声が聞かれました。ンジャカンジャカ小学校にて。

■ 菜園ファシリテーターによる研修実施

JVCが育成した菜園ファシリテーター6名により年間を通して菜園研修が実施されました。事業期間を通し、100名位以上の地域住民に菜園づくりを教えることができました。



左から、マシャウさん、ムポシさん、マエザさん。菜園ファシリテータープログラムの一環として、研修実施手当てとして菜園に活用するタンク、鶏小屋をつくるための資材などを提供しました。



■「菜園活動家」同志の経験交流(東ケープ州)

JVCの過去の自然農法の活動地である東ケープ州を訪問。9名(及びJVCスタッフ2名)が参加しました。二年次に続き実施したこの経験交流では、農業の技術を学び合うだけでなく、自給することの重要性やその成果を目の当たりにする機会になりました。



【上】菜園を訪問する参加者たち。見たことのない植物や野菜について質問する。 【右上】薬品は一切使わず、種も全て自分で採取している。お金には頼らない生活をしたい、と語る農民。【右下】庭で育てた桃はシロップ漬けにして保存。収入源にもなります。リンポポ州の事業地では食品加工はあまり実施されていなく、その方法を熱心に聞く参加者もありました。

3

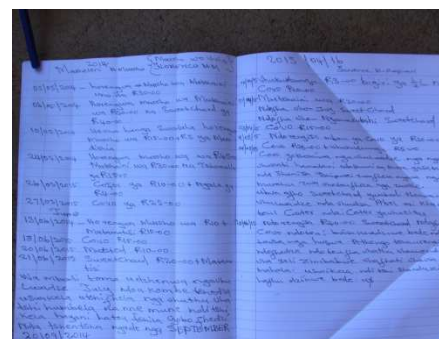
家庭菜園の普及

■菜園ファシリテーターTOT研修 2015年10、11月

本年のTOT研修は、菜園活動の今後の持続性を考え、とくに種の保存と育苗場にチカラを入れて実施しました。菜園ファシリテーターはそれぞれ育苗場を創り、ハーブ、野菜、果樹など多種多様な苗の育成と種の保存・交換を継続しています。



【上、右上】菜園ファシリテーターの育苗場を訪問。名前のラベルをつけたり、種類ごとに並べられたりと、以前より保管状況が改善した様子がかえります。【右下】さまざまな容器に種が保管されている。菜園からの収穫販売を記録したノート。



(特活)日本国際ボランティアセンター

3

家庭菜園の普及

■ファミリー家庭菜園研修

子どもケアセンターに通う子どもたちの中で、家族環境などニーズが高い子どもたちの家庭を対象に菜園研修を実施。家族全員に研修に参加してもらい、必要な野菜の種類を決めること、それぞれの役割分担などを話し合いました。



「しっかり準備」「ことばで説明」「見せる（デモンストレーション）」「やってみる、真似る」「反復する」子どもたちに何かを教えるときの基礎的な流れを、ヒモの結び方や手工芸などを通して学びました。



小さいグループに分かれリーダーを置いて責任をもって教え合うこと、リーダーシップスキル、情報伝達の方法など多くのことを学びました。ゲームを取り入れながら楽しく学ぶ環境を創る方法も学びました。